

人材養成および教育研究上の目的

社会・文化論専攻においては、人間社会及び人間文化の二つの研究領域を、さらに後者には文化構造論・思想文化論・表象文化論の分野を設け、社会学・文化人類学・哲学・宗教学・芸術学を基幹科目として、調査を主とした実践習得型指導方式によるカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。学部での習熟度を踏まえ、講義、演習及び実地調査を通じた研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、もって社会諸方面の要請に応えることのできる専門職業人を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)		教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜修士課程＞			
人文科学研究科社会・文化論専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（文学）の学位を授与する。		人文科学研究科社会・文化論専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	人文科学研究科社会・文化論専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生等を受け入れる。
知識・理解	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会と文化に関わる基礎的な研究の理論と方法論を身につけ、自らの研究に適切な形で応用できる。(DP1) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題を見出し、論文として表現できる。(DP1) 修士論文口頭試問に合格している。(DP1) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「演習」と言わせし「特講」を直せ、受講生に専門分野の理論と方法を学修させ、また、必修科目の履修により、幅広い知識を身につけさせる <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義または文献講読、受講生よる発表の形式で行われる。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業で与えられた課題の到達度や修士論文により、評価する。(DP1) 	<p>【求める学生像】</p> <p>社会・文化論専攻では、日本および諸外国の文化と社会の差異と共通性に、幅広い関心を持つと同時に、専門分野を学ぶための基礎学力を持ち、専門分野の研究を通じて、社会と文化の深い理解、それに基づき積極的に創造的な社会活動に従事する意思を有する学生を求める。</p>
技能	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館・美術館学芸員、中学・高校社会科教員、地方公共団体・NPO・NGO職員等の仕事に深い理解を有し、それらの活動に従事できる。(DP2) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題を見出し、論文として表現できる。(DP2) 修士論文口頭試問に合格している。(DP2) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各専門分野に「講読」を配置し、受講生に文献読解と論文作成の技能を身につけさせる。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習科目担当者である指導教員の指導・助言を受け、自らの研究テーマを追究する。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業で与えられた課題の到達度や修士論文により、評価する。(DP2) 	<p>【入学者選抜の在り方】</p> <p>志望する専門分野に関する専門的な知識を有しているとともに、日本および諸外国の社会と文化に関する知識と幅広い関心を持っていることが、選抜の条件となる。そのため、卒業論文の提出を求めるとともに、志願者の専門分野の基礎的な知識を論述形式で問い、さらに口頭試問を課する。</p>
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理に関する基本的な規範意識を身につけている。(DP3) 社会と文化の多様性について十分な関心と知識をもち、それを反映させた高度な学術的考察を行う態度と意識を持つ。(DP4) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題を見出し、研究倫理を踏まえた上で、論文として表現できる。(DP3・DP4) 修士論文口頭試問に合格している。(DP3・DP4) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各演習科目に「特講」を配置するとともに、各専門分野に文献講読科目を配置している。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習担当者を指導教員とし、その指導のもと、授業科目の選択、修士論文の作成にあたり、研究倫理も身につける。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業で与えられた課題の到達度や修士論文により、評価する。(DP3・DP4) 	